

東京新聞

夕刊



心に描く社会を絵本に 9

障害者権利条約
が目指す世界を
く知ってもらおう
と、全盲男性が絵
本を出版した。

差別ない社会 心に描いた

障害者への差別禁止と社会参加実現を目的に国連が二〇〇六年に採択し、昨年一月に日本が批准した「障害者権利条約」。この条約が目指す社会を広く知ってもらおうと、全盲の視覚障害者で、NPO法人日本障害者協議会(東京都新宿区)代表を務める藤井克徳さん(65)が「えほん障害者権利条約」を出版した。「条約を生かした社会になれば、障害者だけでなく、だれにとっても暮らしやすくなる」と語る。(小形佳奈)

ろには文字が読めなくなり、四年前に光を失った。

じめ当事者団体から「条約が骨抜きにならないよう、まず国内法の整備を」と声

日本障害者協議会代表として、何度も米ニューヨークを訪れ、条約制定に向けた国連の特別委員会を傍聴し続けた。〇六年八月、特別委で条約草案が仮決定された時の盛り上がり鮮明に覚えている。「歓喜の口笛、足踏みが三分ほど続いた。みんなが抱き合う雰

囲気を感じてぞくぞくした」

日本では、同協議会をはじめ、同協力を

「障害者権利条約がきちんと守られたらどうなるの(笑)」。絵本を開くと、そんな問い掛けとともに、手話の授業が行われ、子どもたちがブラインドサツカーを楽しむ学校や、車

いすの女性が仕事に励むオフィスの様子が描かれている。

「名前だけなら」という答え。シヨックだった」と藤井さん。条約の精神を、幅広い世代に伝えたいと願い、絵本づくりを決めた。

生まれつき弱視だった藤井さんは、角膜移植を五回繰り返した。しかし、視力

は次第に衰え、五十歳のこ

日本では、同協議会をはじめ、同協力を

日本も批准 障害者権利条約



①絵本を手に「条約の精神が守られているか注視したい」と話す藤井克徳さん＝東京都新宿区で
②「えほん障害者権利条約」



全盲のNPO代表、絵本出版

障害者権利条約 障害者の基本的人権と尊厳を保障するための人権条約。前文25項目、条文50条からなり、障害のない市民との平等の実現のため、差別や偏見をなくすことに重点が置かれている。表現や移動の自由、地域での自立した生活、政治や余暇活動への参加などを定める。

挿絵は、静岡市の障害者施設職員里圭さんに頼んだ。「目が見えないので、イメージ通りの絵になっていくかどうか、里さんとやりとりするのが最も大変でした」と振り返る。

絵本は「さあ、わけへだてのない社会のはじまりです」という言葉で結ばれている。藤井さんは「ハンデのある人もない人も平等に生きていける社会の実現のため、条約がどれだけ効力を発揮できるか。われわれも、受け入れ側も努力が必要です」と言う。

汐文社発行、三十二ページ。税込み千六百二十円。全国の書店で購入できる。